

平成29年度 いばらき輝く教師塾

茨城県教育委員会
第7・8・9日

公立小学校

- ・児童へ積極的に働きかけ、児童の反応や意見を授業展開に上手に取り入れていた。特に5年生の外国語活動では、児童が例文の意味をよく理解し、単語を入れ替えて発言できていた。ALTが意図的に誤答し、児童の会話量を増やしていた点からも事前の入念な教材研究を感じた。
【若手教員】
- ・児童が考える時間を確保し、チームティーチングでの机間指導により、一人一人の児童へ丁寧に支援を行っている授業だった。児童の考えを大切にしている姿が印象的だった。【学生】

公立中学校・茨城大学教育学部附属中学校

- ・授業の導入での課題の提示の仕方や学習形態の工夫により、一人一人の生徒が主体となり対話的な活動をしていた。生徒同士で考えを深めながら課題解決へ向かう授業展開が大変勉強になった。【学生】
- ・生徒が真剣ながらも笑顔で授業に取り組んでいるのが印象的だった。生徒の学ぶ意欲を高める課題設定と活動内容の工夫が重要であると感じた。【学生】

県立高等学校

- ・道徳の授業において、自分に置き換えて考えることができるよう発問を工夫していた。生徒の意見を多く引き出すためには、何について考えるのかという授業のねらいを明確にすることが重要であると感じた。【学生】
- ・道徳の授業では、教師の価値観や人間性などの特徴も現れてくるように感じた。教師になったら、自分にしかできない道徳の授業を作っていきたい。【学生】

県立特別支援学校

- ・学習環境の整備や教材の工夫が一人一人の教育的ニーズに合わせて行われていた。私は小学校教諭を目指しているが、通常の学級で支援を必要としている児童がいたら実践していきたい。
【学生】
- ・一人一人の児童生徒にしっかりと目を向け、どんなに小さな変化や反応にも気づき、授業を展開しているところが印象的だった。【学生】